

(様式3)

農業研究成果情報

No. 765 (平成28年5月) 分類コード 02-09 熊本県農林水産部

### 「河内晩柑」における後期落果軽減のための植物成長調整剤の散布方法

植物成長調整剤による「河内晩柑」の後期落果軽減では、2回散布が1回散布より効果が高い。特にNAA水溶剤を1～2分着色期に散布し、MCPB乳剤を5～6分着色期に散布すると効果が高い。

なお、MCPB乳剤1回散布の場合は、1～6分着色期の散布が効果が高い。

農業研究センター天草農業研究所 (担当者: 山添純歌)

#### 研究のねらい

「河内晩柑」は着色期から収穫期にかけて後期落果し、多い時には減収につながる。「河内晩柑」の後期落果軽減のため、植物成長調整剤としてMCPB乳剤が使用されてきたが、2011年に総使用回数が2回から1回に変更され、新たにNAA水溶剤が登録された。NAA水溶剤の2回散布はMCPB乳剤の1回散布より効果が高い(農業研究成果情報No. 623 平成25年5月)が、生産現場ではMCPB乳剤1回散布が多い。

そこで、2回散布でのNAA水溶剤とMCPB乳剤の効果的な組み合わせ、およびMCPB乳剤1回散布の効果的な時期を明らかにする。

#### 研究の成果

1. 2回散布では、NAA水溶剤を2回散布するより、MCPB乳剤とNAA水溶剤を1～2分着色期と5～6分着色期に1回ずつ散布する方法が落果軽減効果は高い。特に、NAA水溶剤を1～2分着色期に散布し、MCPB乳剤を5～6分着色期に散布すると、より効果が高い(図1, 2)。
2. MCPB乳剤の1回散布では、1～2分着色期と5～6分着色期の散布が着色前および完着期の散布より後期落果軽減効果が高い(図3)。

#### 普及上の留意点

1. 2012年から2014年度に、天草農業研究所14～16年生の「河内晩柑」で実施した結果である。
2. 河内晩柑は樹勢が弱いと後期落果を助長するため、9月に施肥し、雨が少ない場合はかん水を行う(農業の新しい技術No. 456)。

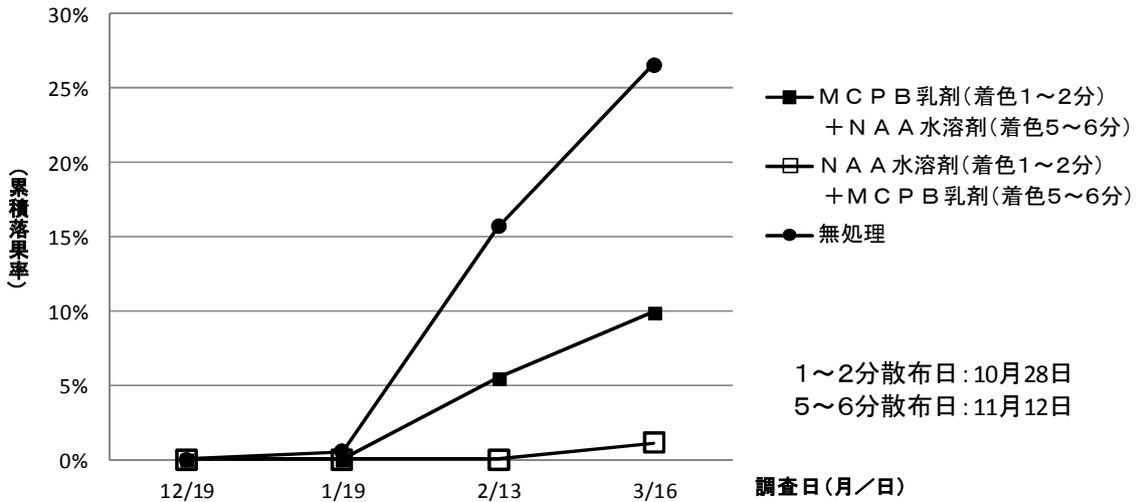


図1 「河内晩柑」の後期落果に対するNAA水溶剤とMCPA乳剤の効果(2013年度:年内落果少)

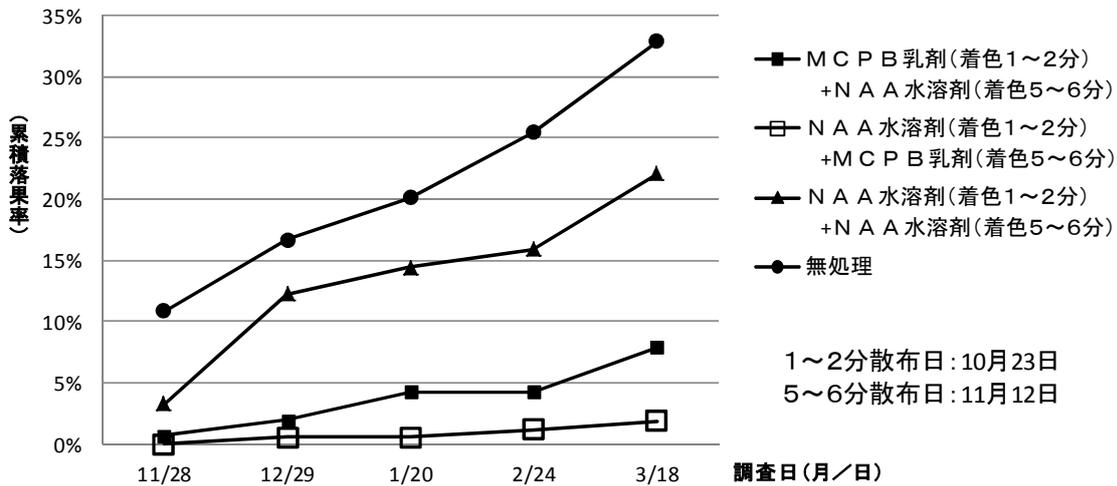


図2 「河内晩柑」の後期落果に対するNAA水溶剤とMCPA乳剤の効果(2014年度:年内落果多)

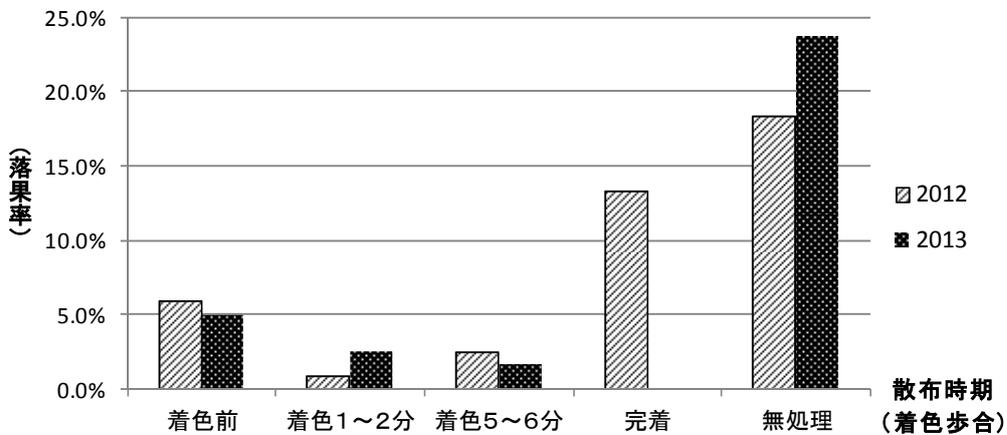


図3 MCPB乳剤1回散布の散布時期が後期落果率(%)に及ぼす影響

注1) 調査は11月~3月までの総落果数

注2) 完着は2012年度のみ